この春オープン！わがまちのニューフェイス

春はものみなスタートの時期です。ほのぼのエリアにも続々と新しい施設や店がオープン。旬の情報をお届けします。

小平市たかの台1414

玉川上水オープンギャラリー

長年の夢が実った私設ギャラリー

小平市

玉川上水沿い、新小川橋近くの「ル・カフェ」隣に2月4日立春の日に開設された、青空ギャラリー。

約9坪のスペースの東西にパネルが3枚と2枚設置され、その中には玉川上水の今の季節を告げる美しい写真の数々が展示してあり、散策中の人々の目を楽しませています。

このギャラリーをつくり、自身の作品を展示しているのが鈴木忠司さん。玉川上水沿いで生まれ、上水の土手と分水で遊び、通学し、35歳から今日まで33年にわたり、毎朝上水べりを散歩しながら、写真を撮り続けています。玉川上水の自然を知り尽くし、人呼んで「玉川上水の申し子」。8年前には定年記念に『玉川上水四季さんぽ』を出版。文章だけでなく、自作のイラストや写真で上水の四季折々の魅力を余す所なく伝えています。

定年後のテーマももちろん、ふるさと「玉川上水」。朝5時から9時近くまでカメラを携えながらウォーク。多い日には300枚もの鳥や野草の写真を撮ります。自宅にはこれまで撮影した写真フィルムやCDが数えきれないほど。武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）出身で画家でもある鈴木さんには「いつか上水沿いに自分のギャラリーを持ちたい」という夢がありました。昨年たまたまウォーキングの途中で売りに出されていた土地を見つけ、「退職金をはたいて」購入。オープンギャラリーにしたいという計画を友人に相談すると、パネルの仕入れや工事職人の紹介など全面協力してくれ、わずか1ヶ月で完成。「考えてもみなかったほど早い、夢の実現」となりました。

「長年の経験から野鳥の習性がわかるようになり、季節によって、決まった場所で鳥たちを待つようになりました。メジロがやってきて春が始まり、エナガは啓蟄の頃に巣を完成させる。冬鳥のツグミは立夏の頃にはいなくなる。というように暦の二十四節気の順番でやってきますので、上水の四季を二十四節気で感じてもらおうと展示しています」

4月5日から19日までは二十四節気の「清明（せいめい）」にあたり、この時期の上水の風景を西展示に、東展示にはテーマごとに花や野鳥、鉛筆画を。2週間ごとに20枚の展示を架け替えます。野鳥の生態の一瞬を捉えた写真、可憐な花々、散策の人々、身近な自然がこんなにも豊かで多彩なことに驚かされます。ギャラリーのすぐ近くにカワセミもくるとか。これから玉川上水が最も美しく輝く頃、鈴木さんの思いが込められた作品を味わいに出かけませんか。

ギャラリーの主　鈴木忠司さん

八国山たいけんの里 5/2オープン

東村山市

東村山市の花菖蒲の名所、北山公園内、八国山の麓に市の新しい施設「八国山たいけんの里」が5月2日にオープンします。ここは平成11年までふるさと歴史館分館として、かやぶき民家園があった場所ですが、同年6月放火により焼失。その再建計画が懸案されていました。そして、平成7年に発見され、18年まで発掘調査された、この地から徒歩5分の下宅部遺跡の出土品保存場所の問題とともに、北山たいけん館構想として計画されてきました。

古民家の再建は今のところ難しい面もあることから、下宅部遺跡や市内遺跡の出土品を保管、収蔵展示できる施設、また自然や民俗、考古を融合させた体験もできる施設として、「八国山たいけんの里」がこのほど完成。約3627㎡の敷地、L字を丸くしたような2階建てのモダンな建物は約613㎡。焼失を免れた棟門と土蔵が民家園の名残をとどめています。西武線の踏切を挟んで、八国山緑地のこころころ広場が見渡せる、緑溢れる絶好のロケーションです。

この施設を担当する、ふるさと歴史館の学芸員、石川正行さんがまだ準備中の館内を案内してくださいました。1階入口を入るとフリーギャラリーで、情報コーナーや小さな作品展示、散策の人々の休憩もできる交流の場。そして体験学習スペース、展示スペースがあり、これらが開放的なワンルームのように配置されています。体験学習スペース奥のスライディングウォール（可動式の壁）を開くとキッチン設備がありました。

ここは、どんぐりをすりつぶして団子汁を作ったり、4千年前からあるうるし工芸や弓矢の体験をしたり、縄文人を体感できる場所。アート&クラフト、伝統文化などをふらっと立ち寄って「ちょこっと体験」や休日には「ほんかく体験」、子どもも大人も楽しめそうです。1階奥は下宅部遺跡の収蔵展示スペース。2階は30万点に及ぶ出土品を保管する収蔵庫と学習ルーム、ボランティアルームがあります。

「市内外から来館いただいて、体験を通して八国山の魅力を感じとってください」と石川さん。

■オープニングイベント　5月2日13時より6日まで　さまざまな体験プログラムが用意されています。

開館時間　9時半～17時（入館は16時半まで）
休館日　月曜・火曜　東村山市野口町3－48－1
TEL　042（390）2161

体験学習スペースで石川さん

フリースペース「すてーじ・刻（とき）」気軽に使える一軒家

清瀬市

40・50代からの女性誌『ウィメンズ・ステージ』の読者交流の場からスタートした清瀬のフリースペースが、この春、リニューアルオープン。自分の時間を大切に楽しもうという意味で名づけた「すてーじ・刻」。清瀬駅から徒歩7分。静かな住宅街の一角にある一軒家です。

今までにも平家琵琶や様々な分野の音楽、一人芝居などミニライブが催されていた14畳ほどのフロアの他に、新たに厨房付小部屋（約8畳）ができて更に利用のバリエーションが広がりました。現在、月1回のペースで、自分史塾・エッセイ塾、おしゃべり会、ビーズステッチ教室、連続講座「天気で語る源氏物語」、朗読教室などが催されています。ギャラリー的に使ってもよし、小さな集い会場にしてもよし、芝居や小楽器の稽古場にしてもよし、手作り品の展示即売やフリマの場にしてもよし、一人で読書をするなどに使っても…

「女性だけに限定するわけではありませんが、（主に）女性が自己開花させる場、或いはほっと一息つける場として、大いに、そして気軽に利用してほしい」と、オーナーの瀬谷道子さん。あなたのためのステージが待っていますよ。

清瀬市上清戸1－16－13
TEL 042（493）0874
スペース利用料金　1時間500円～

市民協働推進センター「ゆめこらぼ」3/15 オープン

西東京市

田無駅南口から歩いて1分、イングビル1階に西東京市の市民活動の拠点となる市民協働推進センターがオープン。公募により「ゆめこらぼ」と名付けられました。以前は店舗だった約70㎡の場所が明るくリフォームされ、事務・相談スペース、サロンコーナーや市民団体のパンフレットスタンド、パソコンや印刷機も設置してあります。

3月15日は坂口市長はじめ関係者が出席しての開設記念式典が催され、その後、オープン記念として日本NPOセンター代表理事、山岡義典さんの講演会が開かれました。

西東京市には現在69の市民活動団体がありますが、行政とともに共通する地域の課題の解決やまちづくりに向けて「協働」の形を生み出していくことがこのセンター設立の目的です。公設民営で運営は公募によって、市の社会福祉協議会に委託。センター長の鈴木剛さん含め、8人のスタッフが事業を企画したり、サポートにあたります。

退職して地域に役立つことをやりたい時、自分たちの活動のPRやメンバーを増やしたい時、他の団体と連携したいとき、さまざまな市民活動の中間支援組織として、小さなスペースながら、拠点があることで、市民活動がよりスムーズに活発になりそうです。

「多くの人たちが集まり、つながり、ここに来れば問題解決できる。そんな一人一人がまちづくりの主役になれるような拠点にしたい」と36歳のセンター長、鈴木さんは張り切っています。隣には西東京市創業支援相談センターがあり、また2月には外国人を支援する「西東京市多文化共生センター」が同じ1階にプレオープンしました。

開館時間　10時～21時
休館日　毎週火曜（祝日の場合開館）
西東京市南町5－6－18イングビル1階
TEL　042（497）6950

センター長の
鈴木剛さん

自然食のコミュニティレストラン Your Big Family

東久留米市

東久留米駅西口から徒歩10分、南沢交番と東久留米郵便局の間（焼肉店隣）に、3月初め小さなコミュニティレストランがオープン。座席はカウンターと8人掛けの大きな楕円形のテーブルのみ。天然珪藻土で塗った白壁に、床は古い蔵の壁のおとし板を再利用したもの。友人宅のリビングを訪れたような、ホッと落ち着く空間です。

オーナーの宮武満喜子さんは10年前から障がい者のヘルパーをやりながら、食環境に関心を持ち、自然食レストランなどでもアルバイトをしてきました。そういう中で接してきた、原因不明の病気の人、ウツの友人、車椅子のため店に入れない人。そんな人々に「一人で抱え込まないで！皆で助け合いたい」という一念からコミュニティの場作りを実現させました。トイレには特にこだわり、大きな車椅子でも入れるよう、引き戸にして広いスペースを取っています。

ヘルパーの仕事も続けているため、当面は週4日営業でランチとティータイムのみ。無農薬発芽玄米、有機野菜、白砂糖や乳製品を使わないマクロビオティックの考え方を取り入れた日替わりランチ、野菜だしの豆乳ラーメン、和洋デザートなど手間と愛情をかけた、安心安全な食事を出しています。

「うちの店にほのぼのマイタウンを置きたいのですが」という宮武さんからの電話がこの店を知るきっかけでした。店内には街の情報、食や環境に関する本がたくさん。テーブルをひとつにしたのも、「ここで知らない人どうしがつながりあい、大きな家族になってほしい」というオーナーの願いが込められています。「これからギャラリー、ライブを催したり、料理上手な主婦の方々に日替わりシェフをやってもらいたいとか、いろいろな企画を考えています」。人に優しいこんな店、ぜひ地域で応援したいものですね。

営業日・時間　火・水・金・土曜の11時30分～16時
東久留米市中央町1－1－48　TEL 042（479）4350

ジェイコムショップひばりが丘店 3/28オープン 西東京市

■営業時間　10時～19時　■定休日　火曜
西東京市ひばりが丘1－3－2
フリーコール0120－999－000
（ジェイコムカスタマーセンター）

ケーブルテレビのジェイコム西東京では、昨年3月のジェイコムショップ田無店に続き、2店目のアンテナショップとなる「ジェイコムショップひばりが丘店」を3月28日にオープン。ひばりヶ丘駅南口徒歩3分パルコからすぐ、あざやかオレンジのジェイコムカラーが目印です。3月28、29日は来店者に花鉢プレゼントや大抽選会のオープニングイベントが開催されました。

ここではテレビのデジタル化のことから、インターネット、電話の相談、リモコンの交換、操作説明から各種サービスの申し込み・変更まで専任スタッフが懇切丁寧に案内してくれます。「大型モニターで話題の地デジ体験もできます。買い物のついでに、ぜひお気軽に立ち寄ってください」と中山店長から。

ラジオ・ラジカセミニ博物館 5月上旬オープン 清瀬市

小金井街道沿い松山2丁目バス停前にある、ビデオ工房トパーズはこれまでの店を都道工事の為取り壊し、1年間仮住まいしていましたが、このほど建替えが完成。オーナーの中村雅哉さんが趣味として蒐集してきた、ラジオとラジカセのミニ博物館が新装オープンします。

中村さんの本業はビデオ撮影や編集、ダビング、DVD制作ですが、これまで好きで集めてきた、70年代から80年代のラジオやラジカセを200台以上所有しています。以前の店でも展示していましたが、これからは専用のラックに収めて100台ほどを展示し、希望者には音も聴いてもらう、マニア垂涎のミニ博物館になりそうです。

清瀬市松山1－13－25
（清瀬駅南口徒歩5分）
TEL 042（491）0122

中村さんの中学時代の70年代はBCLラジオの一大ブームで、海外の短波放送を聴取することが流行し、中村さんも聴くだけではなく、電子工作でラジオを製作したり、高校時代にはFM送信機を製作し、友人たちとミニFM局をつくって楽しんでいたとか。この頃初めて自分で買ったのが、ビクターのラジカセ（写真上）。熱望していたモノを手に入れた喜びそのままに、30年以上を経ても新品同様にピカピカ、いかに大切にしてきたかがわかります。今でも中村さんの宝物です。

音にこだわり、東京工学院音響芸術科で専門の勉強をして、卒業後は吉祥寺のケーブルテレビに入り、技術面を任されていました。11年の勤務後独立、テレビの技術を活かしてビデオ関係の仕事を続けています。

70年代、80年代の欲しい機種のほとんどを集めたという中村さんのラジカセ入手先は質屋、リサイクルショップ、ネットオークションなど。当時欲しくてたまらなかった機種を一旦手に入れると、もう手放せなくなります。

修理が必要なものは自分で修理するので、集めた修理用の回路図資料も膨大。今では40代以降の人たちから修理を頼まれることが多く、自分のコレクションのメンテナンスの時間が少ないことが悩み。

ご自慢の1977年製のナショナルステレオラジカセ（写真中）でジャズを聞かせてもらいました。素人の耳でも家で聴く音との違いがわかるようないい音。「ごついデザインからやわらかい音がでるでしょ。耳あたりのいい、疲れない音です。バブル期前の国産オーディオ製品は質が違いますね。そんな品を苦労して直し、いい音が出た時、お客さんが喜んでくれた時が一番うれしい」。

見学者に同じ音源や同じ機種での聞き較べも体験してほしい。同じ機種でも使い方やスピーカーの鳴らしこみ方で音質が変わると、音のプロが教えてくれました。オープンは5月上旬予定。撮影で外出していることもあるので、電話で確認して出かけてください。

ビクターステレオラジカセ
BIPHONIC838　1978年
（当時￥79,800）

ナショナルステレオラジカセ
STERO MAC ST-5
1977年　（当時￥64,800）

ナショナルラジオ
COUGAR2200
1976年（当時34,800円）